



## 経験豊富なスタッフと綿密な計画書によって、安全性、信頼性を追求する

有限会社小倉重量 おぐら 奈良県北葛城郡上牧町

空調設備や太陽電池パネル装置といった大型の機械設備を製造元から納入先へ搬送し、据え付けるといった作業は、「機械器具設置工事業」と呼ばれる専門の業者に委ねることが多い。

有限会社小倉重量は、経験豊富なスタッフと綿密な計画書によって、安全性と信頼性を追求。近畿地方を中心に大手家電メーカー、大手スーパーなどへの大型機械設備の搬入・据付・解体・運搬などの工事を請け負っている。

### 会社概要



会社名：有限会社小倉重量  
所在地：奈良県北葛城郡上牧町  
服部台2丁目8-39  
電話：0745-78-0621  
FAX：0745-78-0621  
設立：平成9年1月  
代表者：代表取締役 小倉一彦  
資本金：500万円  
従業員：18名  
事業：機械器具設置工事業、建物解体  
工事請負業など

### 機械器具設置工事業として創業

空調設備や太陽電池パネル装置といった大型の機械設備は、通常、メーカーが製造した後、製造元から納入先へ搬送し、その場所での据付工事が完了してはじめて機械設備として機能する。ところが、重量があり嵩高な機械設備ほど、搬送・据付等にかかる工事が煩雑になる。そこで、これら一連の工事は、「機械器具設置工事業」と呼ばれる専門の業者に委ねることが多い。

奈良県上牧町に本社を置く有限会社小倉重量は、機械器具設置工事業を主たる事業としており、重量物の搬入・据付・解体・運搬などの事業を展開。近畿地方が中心だが、顧客の要望で全国へ出向く。

同社の創業は平成4年。妻の親元が行っていた会社（株式会社藤本重量）にいったん就職した小倉一彦社長は、専門技術や経営ノウハウなどを習得して独立開業した。平成9年には法人化し、現在は総合的な工事関連を中心とする有限会社小倉重量と単体機械を主とする株式会社藤本重量の経営者を兼ねている。

### 同社事業取り組みの経緯

創業以来、小倉社長は地道な活動を続け顧客を順調に増やしていく。不況のあおりを受け一時的に売上が低下した時期もあったが、現在、売上は回復基調にある。また、不況下でも取引先数は減らなかった。「不況の時期は、拡大しないパイの取り合いで、業者間での競争が激化していく」と考えた小倉社長は、取引先の拡大を敢えて行わず、現状を維持しながら頃合いを見計らった。そして、今年、取引先の新規開拓に打って出た。結果、先方の要望が同社の供給とうまくマッチしたこともあって、大手電機メーカー、大手重機メーカーの受注に成功した。

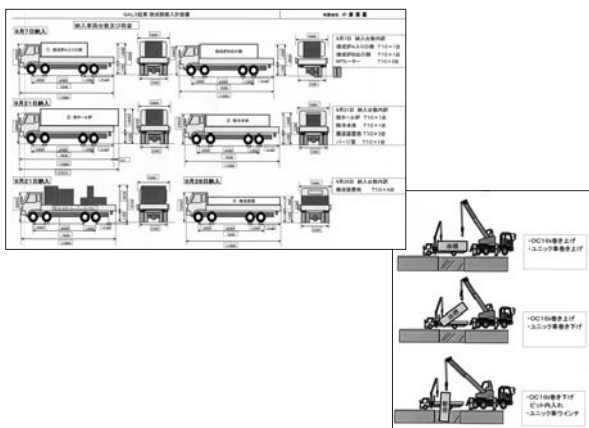


有限会社小倉重量事務所の外観（大阪府藤井寺市）

## 独自の搬入計画書を作成

このような成功の陰には綿密な「計画書」の存在があった。重量のある機械の搬入や据え付けの工事を行う際、現場には大きな制約や課題がある。例えば、搬入場所は必ずしも広い場所とは限らない。障害物や高低差があったり、移動スペースが十分に取れなかったりする。そのため、机上ではイメージしていなかったような不都合が現場で起こることも少なくない。当然、事故が起こる可能性も否定できない。

こういった諸問題を可能な限り解消するために作られたのが「搬入計画書」である。この計画書は、同業者との差別化をはかるため、小倉社長が平成15年頃に導入を始めたもので、できるだけ事故をなくし、安全かつ確実に作業ができるように綿密に作成されている。



搬入計画書の一部

この計画書を見れば、門型リフター（※）やクレーン、トラック等の重機を使用した搬入・据付作業の工程が一目でわかる。さらに、搬入計画書を利用することでクライアントへの工事内容の説明が明瞭・簡潔になる。実際、クライアントからの評価も上々で、企業イメージのアップにも貢献している。

（※）門型リフター…移動式門型クレーンともいわれ、油圧シリンダー等によって伸縮する機構を備えた多段階式箱形ブーム（柱）とビーム（梁）を門型に組み合わせ、ビームにセットした荷重物を吊り上げ移動させる重機。分解・組立式のため、幅広い作業に対応可。

## 経験豊富なスタッフを率いての今後の展開に注目

「より厳しい安全計画を作成することが事故を少なくする最善の方法。また、その人の能力に見合った作業を指示することが大事」と小倉社長は話す。それは、要求される能力を持たない人員を誤って配置することが事故のリスクを高めるとの考え方からだ。「今は技能を持っていてあたりまえの時代。旧来のように職人の勘に頼るのではなく、技量・技能を養ったうえに、その人に適した場所で適確な道具を使うことが必要」（小倉社長）と考え、機械操作・鍛冶・<sup>かじ</sup>・<sup>とび</sup>など多くの分野に経験豊富なスタッフをそろえている。

同社が扱う工事は搬入、据え付けだけにとどまらない。工場の撤退にともなう機械類の回収や、レイアウト変更等による機械の移動などの需要も多く見込める。経験豊富なスタッフと綿密な計画書によって安全性と信頼性を追求していく同社の今後の動向が注目される。

（丸尾尚史、島田清彦）



＜所有重機の一部＞  
門型リフター（上）とユニック車（下）